

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2015

課題番号：24651272

研究課題名(和文) 民主化と教育：アフリカ3か国の公民教科書に見る市民性の認識

研究課題名(英文) Democratization and Education: Perceptions on citizenship in civics textbooks in three African countries

研究代表者

山田 肖子 (Yamada, Shoko)

名古屋大学・国際開発研究科・教授

研究者番号：90377143

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、エチオピア、南アフリカ、ケニアの3ヶ国において、中等教育段階の公民及び歴史教科書の内容分析を行い、民主主義、市民性、固有の文化・歴史が教育提供主体によってどのように認識され、学校教育の場で伝達されようとしているのかを把握することを目指した。

プロジェクトの第一段階として、エチオピアの教科書を行い、そこで用いた教科書の分類項目を基に、(1)教科書の章立て、(2)記述の手法、(3)取り上げられている概念、(4)その概念を取り上げる際の教科書のスタンス、(5)生徒に身に付けさせようとしている能力、(6)言及している社会・人の単位など、3か国共通の枠組みを作成し、比較分析を行った。

研究成果の概要(英文)：This research has aimed to untangle how the concepts of democracy and citizenship are transmitted to students at school, by means of content analysis of civics and history textbooks for secondary level in Ethiopia, South Africa, and Kenya.

At the first stage of research, the textbooks in Ethiopia has been analyzed, and the coding criteria used for them were adapted to the analysis of textbooks from two other countries for the sake of comparison. The common analytical framework used were: (1) structure of the textbook; (2) approaches of presenting ideas; (3) concepts and ideas discussed; (4) the stance of the textbook in discussing concepts raised in (3); (4) skills and knowledge expected for students to acquire; and (6) units of society and people which are highlighted.

研究分野：比較国際教育学、アフリカ研究、教育社会学

キーワード：アフリカ研究 市民性教育 教科書分析 民主化

1. 研究開始当初の背景

アフリカの民主主義が、政治制度としてだけでなく、民族融和や社会開発のための価値規範として、どのように形成・伝達されようとしているかを、教育内容及びそこに反映される政府の意図を解きほぐすことによって明らかにする。

2. 研究の目的

エチオピア・南アフリカ・ケニアの3ヶ国において、中等教育段階の社会科(特に公民)教科書の内容分析を行い、民主主義、市民性、固有の文化・歴史が教育提供主体によってどのように認識され、学校教育の場で伝達されようとしているのかを把握することを目指す。

3. 研究の方法

以下のフェーズ・手順に従い段階的に調査を進めた。

<準備段階：平成24年度>

教科書、カリキュラム、シラバスの収集(平成24年4月～11月)

カリキュラム、シラバスの傾向分析(平成24年12月～平成25年1月)

分析手法の共有化のためのワークショップ開催(平成25年2～3月)

<展開段階：平成25年度>

カリキュラム策定者、教科書執筆者へのインタビュー(平成25年5～9月)

分析、論文文化作業(平成25年5月～平成26年3月)

<総括段階：平成26-27年度>

エボラ出血熱の発生等の事情により、総括期間を延長したが、予定通り、下記の作業を行った。

総括ワークショップ(平成27年5月)

出版準備

学会発表(平成27年6月)

各国での研究発表(平成27年7月～平成28年2月)

4. 研究成果

本研究は、民主化過程にある国で、政府がどのような市民性概念を大衆に伝えようとしているかを、教科書というメディアの分析を通じて把握しようとしたものである。一般に概念の把握は困難であるが、特に、他民族社会や政治関係が複雑な社会で、アンケート調査などは実施しにくいだけでなく、実施したとしても、支配政党や為政者の目を気にして、正直な回答を得ることは難しい。

その一方で、多党制民主主義を導入した社会で、有権者である大衆がどのように民主主義を捉えているか、あるいは、その前提として、為政者が、民主主義や市民性をどのような概念として定着させようとしているかを知ることが、政治学の研究に対しても、現実の政治動態を捉えるうえでも、きわめて重要である。

教育の場が明示的、暗示的に果たす価値伝達やアイデンティティ形成の役割については、多くの教育社会学者が研究している。また、教科書分析も定量的、定性的な様々な方法が行われてきている。しかし、ODA や援助の国際潮流と密接に関わって展開してきた発展途上国教育研究の中では、就学の拡大、教師の質・量の確保、学校運営といった、学校教育の機能的側面に関心が集中し、価値伝達のチャンネルとして教育が果たしている正負の役割についての社会学的考察が不足している。アフリカの教育研究は、まさにその典型と言えるだろう。

一方、民主化プロセスはアフリカ政治研究の中では重要なテーマの一つとして、多くの研究が行われてきている。アフリカでは、1990年代以降の民主化の波を経て、多くの国で多党制民主主義が導入されたが、選挙が民族対立を先鋭化させたり、政権維持のために支配政党が得票を操作したという疑惑が国内騒乱に発展したりするなど、状況は複雑であり、アフリカ型の民主主義の在り方については研究者の間でも議論が分かれるところである。

このように、政治学の中では、アフリカの民主制、市民性について研究が深められているが、その中で教育が少なからず果たしている役割についてはあまり検討がなされてきていない。

そこで、本研究では、教科書という教育メディアの分析を通じて、学校教育の提供主体が、それぞれの国の政治、経済、社会、及び国際社会での位置づけをどのように説明し、また、次世代の市民像をどのように描いているのかを把握し、社会装置としての教育が政治変動に果たす役割、影響を読み解くこととする。

分析に用いたのは、エチオピア、南アフリカ、ケニアの3ヶ国の、中等教育段階の公民及び歴史教科書である。初年度に、エチオピアの教科書のコーディングと内容分析を行い、そこで形成された分析枠組みを、他の2つの国の教科書に対しても用いることで、比較可能性を担保した。その結果、多くの国が90年代以降、民主化プロセスを経験しているにも関わらず、その政治的変動の根本にある、有権者の政治的価値観の変容や、それを方向付けようとする政府の意図について、十分な研究がなされてこなかった東南部アフリカに関して、民主主義、市民性、固有の文化・歴史が教育提供主体によってどのように認識され、学校教育の場で伝達されようとしているのかを把握することに貢献した。

平成24年度には、研究の第一段階として、エチオピア、ケニア、南アフリカ3か国において、過去20年間の歴史・公民教科書、教員指導書、カリキュラム、シラバスを収集した。そのうえで、科目の中での概念の定義、教授法、学習者に身につかせようとしてい

る能力がどのように異なるかを、(1)一つの国の中での異なる時期、(2)複数の教科書会社間、(3)国家間、の3つの軸で比較した。比較を行うため、共通の比較基準を設ける必要があるが、そのためにはカリキュラムやシラバスから変遷のパターンや共通性などを大雑把につかむ必要がある。そこで、各国での資料収集後、数か月かけてカリキュラム、シラバスの傾向分析を行った。

平成25年度には、3か国比較のため、上記の作業結果に基づき、各国研究協力者によるワークショップを開催し、分析手法を共有化した。申請者がエチオピアの教科書で試験的に用いた分類項目を基に、(1)教科書の章立て、(2)記述の手法、(3)取り上げられている概念、(4)その概念を取り上げる際の教科書のスタンス(肯定的、中立的、否定的)、(5)生徒に身に付けさせようとしている能力(知識の定着、個人としての行動、対人関係における態度・行動、市民としての態度・行動)、(6)言及している社会・人の単位(個人、地域社会、国、国際社会)など、共通の分類項目を作成し、比較分析を行った。

エボラ出血熱の発生等で研究協力者の渡航が困難になり、研究期間を延長したが、平成27年度には、研究成果のとりまとめが進み、国際学会等でも発表を行うことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

1. Yamada, Shoko

“Patterns in Japanese Comparative Education Practices: A Contrast with North America and Greater China.” 2016. Educational Studies in Japan: International Yearbook No. 10, Japan Society of Education Studies. (査読あり)

2. Yamada Shoko,

“From humanitarianism to trade promotion: the changing emphasis of Japanese development co-operation to Africa”. 2015. African East-Asian Affairs: The China Monitor, June 2015, Issue 1 & 2, pp. 28-49. (査読あり)

3. Yamada Shoko,

“The Constituent Elements of Comparative Education in Japan: A Comparison with North America”. 2015. Comparative Education Review, University of Chicago Press. Vol. 59, no. 2, pp. 234-260. (査読あり)

4. Yamada Shoko, Kiyoshi Fujikawa, Krishna Pangeeni

“Islanders' Educational Choice: Determinants of the Students' Performance in the Cambridge International Certificate Exams in the Republic of Maldives.” 2105.

International Journal of Educational Development, Elsevier. Vol. 41, pp. 60-69. (査読あり)

5. 山田肖子

「解釈する能力と情報を反復する能力：アフリカ伝統社会での教育からの投影. 2014

『主体的学び』2号. pp. 101-114. 東信堂 (査読なし)

6. Yamada, Shoko

“Constructs of a Space of Comparative Education: Findings from a Survey of Members of Japan Comparative Education Society and Their Publications”. 2014.

International Journal of Comparative Education and Development, Vol. 16, No. 1, pp. 31-48. University of Hong Kong. (査読あり)

7. Yamada, Shoko

“Introduction.” Special issue on Emergence of New Donors and Paradigm Shift in International Educational Aid: Exploring Asian Uniqueness and Diversity (Issue editor: Shoko Yamada). 2014.

Asian Education and Development Studies, Vol. 3, Issue 1, pp. 2-10. Emerald publishing.

(査読あり)

8. Yamada, Shoko

“Japanese Educational Aid in Transition: Between the Aid Coordination and Unique Model.” Special issue on Emergence of New Donors and Paradigm Shift in International Educational Aid: Exploring Asian Uniqueness and Diversity (Issue editor: Shoko Yamada). 2014

Asian Education and Development Studies, Vol. 3, Issue 1, pp. 76-94. Emerald publishing. (査読あり)

9. Yamada, Shoko

“Determinants of ‘Community Participation’: The Tradition of Local Initiatives and the Institutionalization of School Management Committees in Oromia Region, Ethiopia.” 2012

Compare: Journal of Comparative Education. Vol. 42, Issue 6, 100-111. Taylor and Francis. (査読あり)

10. Yoshida kazuhiko and Shoko Yamada

“Skills Development for poverty reduction”

UNESCO. EFA Global Monitoring Report.
County paper on Japan.2012
(査読なし)

11. Bedru Beshir and Yoshiaki Nishikawa
“Facilitating Improved Maize Seed Supply
through Farmer Research Group Approach
in Drought Prone Areas of Ethiopia.2013
Journal of Agricultural Development
Studies.Vol. 23, Issue 3, 12-21
(査読あり)

[学会発表](計 22 件)

1. 山田肖子

「アフリカ教育開発のいま - 日ア相互人材
育成に向けて - 」アフリカにおける 21 世紀
の人材育成: あしなが 100 年構想と第 6 回ア
フリカ開発会議 8TICAD)(招待講
演),2106 年 1 月 26 日

2. Shoko Yamada

Asian-ness in Development cooperation
and Potentials of development studies: a
Comparative Study of Japan, South Korea,
and China”. Annual meeting of Korea
Association for International Development
and Cooperation. (招待講演). 2015 年 12 月
11 日.

3. 山田肖子

「北東アジアドナー - 国の援助政策に見る
アジア的教育観、開発観と ADGs に対する役
割の可能性」第 9 回教育セクターにおける大
学・JICA との勉強会.2015 年 12 月 21 日

4. 山田肖子

「学校か徒弟か: ガーナ国クマシ県における
自動車修理技術の形成パターン」日本アフリ
カ学会,2014 年 5 月 24 ~ 25 日

5. 山田肖子

「学びの場としてのインフォーマルセクタ
ー: ガーナ国クマシにおける自動車修理徒弟
のライフコース」日本比較教育学会,2014 年
7 月 12 ~ 13 日

6. Shoko Yamada

“Recent Development of Japanese policy on
International Education Cooperation and
the Location of Africa in It “International
Seminar on China-Africa Education
Development and Capacity Building(招待
講演).2014 年 10 月 23 ~ 24 日

7. Shoko Yamada

“Compiled Ideas of Global Citizenship
education and Education for Sustainable
Development”. ESD-GCE International
Expert workshop(招待講演). 2014 年 10 月
17 日

8. 山田肖子

「学びの場としてのインフォーマルセクタ
ー: ガーナ国クマシにおける自動車修理徒弟
のライフコース」『シンポジウム 文化的・
社会的環境で育つ子供: アフリカ子ども学
の試み』日本子ども学会議(招待講演),2014 年
9 月 27 日

9. Shoko Yamada

“Asian ways: Philosophical and
Sociopolitical Contexts of International
Education Cooperation by Asian
Countries”. Korean Association of
International Studies. (招待講演).2104 年 8
月 23 日

10. Shoko Yamada

“Practice and modalities of educational
finance in Asia”. Le Colloque International
del' education en Asie en 2014: quels
enjeux mondiaux? 2014 年 6 月 12 ~ 13 日.

11. Shoko Yamada

“Changing Paradigm and Positions of
Asian Donors in the Aid Discourse”,
Comparative and International Education
Society. 2014 年 3 月 12 日

12. Shoko Yamada

“Positions of Asian Donors in the aid
discourse toward post-2015.” The
SSK-GSID International Workshop.2014 年
2 月 10 日

13. Shoko Yamada

“A road to Post-2015 Agenda Setting:
towards the consensus in the multi-polar
context of discourse”. The 14th
International Conference on Education
Research. (招待講演).2013 年 10 月 18 日

14. Shoko Yamada

“Constructs of the spaces of comparative
education-A reflection from Japan”. World
Congress of Comparative Education
Societies.2013 年 6 月 27 日

15. Shoko Yamada

“Between transplantation and symbolism:
Re-examining the influence of the
American black industrial education model
on British colonial education in Africa”.
The workshop on Colonial Education in
Africa. (招待講演)2013 年 7 月 5 日

16. Shoko Yamada

“Findings from Ethiopia on determinants
of ‘community participation’ in education”.
Human development Network, World Bank

(招待講演)2013年5月1日

17. Shoko Yamada

“Multi-grade classes and challenges of small rural schools in Japan”. The 21st Century Education Summit(招待講演). 2013年12月4日

18. 山田肖子

「アフリカにおける教育の歴史と現代の課題」JICAひろば(招待講演),2013年1月20日

19. 山田肖子

「大学生のためのアフリカ入門セミナー」JICAひろば(招待講演),2013年2月20日

20. 山田肖子

「若者による公教育 - 伝統的徒弟制度間の渡りと技能形成: ガーナ国クマシ県の事例」第2回アフリカ子ども学を語る会(招待講演),2012年10月6日

21. 山田肖子

「教科書に見る市民性概念: エチオピア民主化プロセスにおける公民教育」アフリカ学会第49回大会,2012年5月27日

22. 山田肖子

「地域研究と開発研究の融合に向けた試論: ガーナ国における技術教育と伝統的徒弟制を事例に」日本比較教育学会48回大会,2012年6月16日

〔図書〕(計7件)

1. 山田肖子

「教科書に見る民主主義と多文化共生: エチオピア連邦民主共和国における市民性教育」高橋基樹・大山修一編『開発と共生を求めてアフリカにおける資源、市場、国家と人々』「紛争と共生」第三巻.2016. 京都大学出版会

2. 山田肖子

「エチオピア: 住民による学校支援の背景を探る オロミア州における参加型調査」澤村信英編『アフリカの生活世界と学校教育』2015.pp. 122-146. 明石書店

3. Ampiah Joseph Ghartey, Shoko Yamada

“ UPE Policy Assessment in Ghana.” Ogawa, Keiichi and Mikiko Nishimura (Eds), Comparative Analysis on Universal Primary Education Policy and Practice in Sub-Saharan Africa. 2015. pp. 13-34, Sense Publishers

4. Ampiah Joseph Ghartey, Shoko Yamada

“ UPE Policy and Quality of Education in Ghana.” Ogawa, Keiichi and Mikiko Nishimura (Eds), Comparative Analysis on Universal Primary Education Policy and Practice in Sub-Saharan Africa.2015. pp. 111-134, Sense Publishers

5. 山田肖子(翻訳),

『教育省のガバナンス』Sack, Richard and Mahieddine Saidi (1997). Functional analysis (management audits) of the organization of ministries of education. UNESCO.2015.pp. 87, 東信堂

6. 山田肖子

『アフリカ事典』「総説: 教育学」2014.昭和堂

7. Shoko Yamada

”Domesticating Democracy? Civic and Ethical Education textbooks in Secondary School in the democratization Period of Ethiopia “in Williams, James H. (ed.) Building Memory: school Textbooks, Identity, and the Pedagogies and Politics of Imagining community, 2013.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ

<http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/syamada/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 肖子 (YAMADA, Shoko)

名古屋大学大学院国際開発研究科・教授

研究者番号: 90377143

(2) 研究分担者

西川 芳昭 (NISHIKAWA, Yoshiaki)
龍谷大学経済学部・教授
研究者番号： 80290641

(3)連携研究者

なし